

提案大学	九州大学
連携大学	—



九州大学 オープン研究技術基盤プロジェクト

Q-PORT:Kyushu University Platform for Open Research & Technology

Kyushu University

VISION 2030 総合知で社会変革を牽引する大学へ

研究設備・技術人材・データを核とするコアファシリティを、異なる知を有機的に接続し、相互作用により社会実装に至るまで一体的に駆動させ、「総合知」をさらに新たな知「統合知」へと進化させる基盤＝「**知の港（PORT）**」として再定義

九州大学のコアファシリティを、所属、初期設備、専門分野、地理的制約を越え、若手研究者、異分野参入者、学外研究者、スタートアップ、産業界が必要な設備・技術・データへ迅速かつシームレスにアクセスできる開かれた研究基盤へ



Open戦略

開かれた先端研究基盤の構築
— 先端機器 × AI × 開発

□ 3クラス型コアファシリティの確立

機器開放型(Ⅰ)・受託分析型(Ⅱ)・問題解決型(Ⅲ)の3クラスで研究者ニーズに応じた支援を提供し、全学共通のファシリティ運用。

□ 九州大学独自のAI・データ基盤の構築

機器・データ・AIをShareAid上に統合し、ARIM RDE等とも連携。管理AIと研究用AIの実装により研究の再現性・説明可能性を担保。

□ 国産先端機器の共同開発

電子線ホログラフィー・空間オミクス等の独自技術を国産機器化。産学連携の拠点を形成し開発・高度化・共用を一体的に推進。



Connect戦略

人が集まる魅力的な研究の場の創出
— 人材 × 拠点 × 連携

□ 技術教員制と複線的キャリアパス

技術人材を研究基盤の中核資産に位置付け、技術教員制度の新設、適切なインセンティブ等により国内最高水準の処遇と複線的キャリアパスを実現。

□ 4キャンパス機能特化拠点とオープンラボの連結

各キャンパスの機能特化を活かしたコアファシリティ拠点群と民間レンタルラボを連結し、若手・スタートアップが日常的に交わる場を創出。

□ 広域・国際連携ハブの形成

KOOU(九州・沖縄11大学)等を活用した、地域全体の研究基盤を高度化。



Sustain戦略

持続可能な研究基盤運営
エコシステムの確立
— ガバナンス × 財源 × 産学連携

□ Q-PORT研究戦略部による全学ガバナンスの確立

総長直下のQ-PORT研究戦略部が全学コアファシリティを統括。部局横断的な資源最適化を実現。

□ 多重収益構造による財務的自走

大学自主財源＋企業共同研究収入＋間接経費による多重収益構造を構築し、持続的な設備投資・人材任用を確保。

□ 共同研究契約の活用

研究開発税制等を活用し、企業との大型共同研究契約を加速するとともに、共同研究に機器共用を取り入れた新たな共同研究契約のフレームを設定。